第４回　国立大学法人琉球大学上原地区キャンパス跡地利用
将来ビジョン検討委員会議事要旨

日時：令和３年９月２日（木）１５：００～１６：３０
場所：琉球大学医学部管理棟３階　大会議室
構成員：
（琉球大学）大屋理事（キャンパス移転担当）、大城理事（財務・施設・キャンパスマネジメント担当）、筒井学部長、移転推進本部　三沼事務部長
（西原町）総務部　與那嶺部長、建設部　小橋川部長
（西原町民代表）上原自治会　石原会長
（沖縄県）商工労働部　嘉数部長（友利　産業雇用統括監代理出席）、保健医療部　大城部長（諸見里　医療企画統括監代理出席）
（沖縄総合事務局）経済産業部　本道部長
（学識経験者）小野教授（琉球大学工学部）、大城前琉球大学学長

【議事】
（１）意見提案（跡地利用に係る具体的な案について）
・琉球大学病院・医学部移転跡地利用における配慮事項
琉球大学病院・医学部移転跡地利用における配慮事項について、資料１に基づき、小野委員から説明があった。

（２）琉球大学上原キャンパスの跡地利用に係る将来ビジョン報告書（素案）について
琉球大学上原キャンパスの跡地利用に係る将来ビジョン報告書（素案）について、資料２に基づき、事務局から説明があり、委員会後、各委員へ意見照会を行う旨、案内があった。

（３）意見交換
各委員と以下のとおり意見交換を行った。

（主な意見等）
〇委員
資料２について、上原キャンパスを南北に分断する県道２９号線は拡幅されない旧道である。また、新道の２９号線が拡幅しても現状を超える発生交通量は難しいことを考慮すべきである。さらに、国土交通省が市街地整備に必要な人口として定めているのは４０００人／㎢のため、町村ベースでいうと西原町の人口密度は低いと言える。また、西原町マスタープランの画像があるが、広域で考えた方がいいのではないか。

○委員

資料２について、土地利用ゾーニングを検討するにあたり、建物の情報（用途、構造、耐用年数）が必要であると考えているので、提供いただきたい。今後、ゾーニングは大幅に変更される可能性があるのか。

○副委員長

イメージとして捉えいただきたい。今後、サウンディング調査等を踏まえ、より良い提案があれば変更していくと考えている。

○副委員長

交通の利便性が良くなる案があれば、教えていただきたい。

○委員

大きな幹線道路まで通行できるよう一体的に開発できれば問題無いと考える。

○副委員長

県や西原町、北中城村の道路計画と大きく関係すると思われる。上原キャンパス跡地を有効利用するため、道路を拡張する等の可能性があるか教えていただきたい。

○委員

資料２で示されている人材育成ゾーンと医療・福祉ゾーンは 2 カ所からのアクセスとなっているため、混雑を避けられる配置であるが、ゾーン間に道路を整備してもいいのではないかと考える。なお、跡地利用は斜面地も一体的に検討するのか。

○事務局

斜面地も含め赤枠で囲った全体が対象である。なお、地図上部の農学部の演習林は入っていない。

○委員

上原キャンパス跡地は面積も広く立地にも恵まれているため、地域に限らず沖縄県全体の発展に資する土地利用を検討する必要があると考えている。また、”雇用の創出”という表現があるが、賃金水準が確保できるような質の高い雇用の創出という観点で検討したほうがいいのではないか。さらに、人材育成ゾーンに産業振興機能が含まれていることに違和感があるため、医療・福祉ゾーンに、病院機能と併せて研究開発型の医療・健康という観点で産業振興機能を導入するゾーニングもあるのではないか。最後に、基本方針として、跡地利用に併せた道路整備等について言及されているが、本委員会の議論の範囲を超えていないか。

○事務局

いただいたご意見を反映し、報告書をブラッシュアップしていきたい。

○委員

上原キャンパス間の県道２９号線は、旧道であり西原町へ移管されていないか。また、県全体の視点と同時に、小学校区単位で必要な都市施設の充足等、足元の視点も必要だと考えている。周辺

の施設の立地状況に、小学校を追記したほうがいい。

〇委員

区画整理後は町が管理している道路もあるが、県道２９号線旧道は県管轄である。また、西原町の人口の４割は上地区（西側の比較的高台）、６割は下地区（東側の平坦な地域）に分布しており、今後、人口増加の状況を踏まえ、新たな小学校設置について検討することになれば、上地区への設置という可能性もあるだろう。資料２に掲載されている西原町都市計画マスタープランの画像は最新のものがあるため、差し替えたい。

〇委員長

資料１において、広島大学移転の情報を説明いただいたが、旧キャンパスの活用状況等の情報があれば、報告書作成の際の参考にしたい。

〇委員

調査された情報があるため、改めて紹介したい。

〇委員

跡地利用に関する他大学の事例は、どのくらいあるのか。上原キャンパスと同規模の事例もあれば教えていただきたい。

〇委員

大学キャンパスの郊外移転が進んだ時期の事例は、いくつか調査報告がある。九州大学の場合は、基本的に旧キャンパスを売却し、区画整理事業や独立行政法人によって開発を行ったという流れである。跡地利用は立地も重要な要素である。本学の場合、モノレール駅から離れているが、那覇広域都市計画の市街化区域に入っているため開発市場としての価値はあると考えられる。